

令和元年度氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 令和元年8月29日(木)
- 2 開催場所 市役所A棟2階全員協議会室
- 3 会議時間 午前9時30分～午後0時
- 4 出席委員 伊藤宣良、山本浩二(上田兵吾代理)、禪野葵、高木陽子、七分由紀雄(高嶋達 代理)、寺下利宏、堂端誠作、松原勝久、森本太郎、猶明孝信、清水賢一、矢地雅樹、向井久尚、田中英雄、釣賀節子、林千昭、山口新輔 計17名
- 5 欠席委員 濱谷英俊
- 6 市出席者 林正之(市長)、小野裕一郎(副市長)、鎌仲徹也(教育長)、高橋正明(政策統括監)、京田武彦(企画政策部長)、藤澤一興(総務部長)、澤永貢子(市民部長)、森田博之(産業振興部長)、大野一也(建設部長)、川淵宏朗(会計管理者)、宮下宗久(防災・危機管理監)、大門芳宏(教育次長)、横山修一(消防長)、高野弘文(地方創生推進課長)、泉澤智秋(総務課長)、東軒宏彰(財務課長)ほか

7 案 件

(1) 配布資料の説明

- 資料1 氷見市の行財政改革について
- 資料2 「氷見市行政改革プラン」基本計画 数値目標実績(平成30年度)
- 資料3 氷見市中長期財政見通し(令和元年度～令和10年度)
- 資料4 「氷見市行政改革プラン」実施計画 取組内容(令和元年度追加分)
- 資料5 「氷見市行政改革プラン」実施計画 取組実績等一覧

(2) 質疑応答、意見交換

8 発言内容 別紙のとおり

発 言 内 容	
泉澤総務課長	<p>ただいまから、令和元年度氷見市行政改革推進市民懇話会を開催いたします。</p> <p>委員の皆様方には、ご多用のところ、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、本日の司会を務めさせていただきます総務課長の泉澤でございます。よろしく願いいたします。</p> <p>はじめに、市長より、あいさつを申し上げます。</p>
林市長	<p>令和元年度氷見市行政改革推進市民懇話会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。</p> <p>皆様方におかれましては、本日は、何かとご多用のところ、本懇話会にご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>また、行政改革推進市民懇話会委員の就任をお願いいたしましたところ、快くお引き受けいただき、厚くお礼申し上げます。</p> <p>加えまして、皆様方には、日頃から市政の発展に多大なるご理解とご協力を賜り、改めてお礼申し上げます。</p> <p>本市では、「令和」という新時代の幕開けの年にあたる本年度を「地方創生推進元年」と位置付け、人口が減少しても市民の皆様が生き生きと安心して生活できる持続可能なまちづくりを実現するため、氷見市を元気にしていくための「氷見元気プロジェクト」を職員一丸となって強力に進めているところでございます。</p> <p>現行の「氷見市行政改革プラン」は、平成30年度から令和3年度までの4年間を計画期間としており、人口減少や少子高齢化に伴う歳入の減少や老朽化した公共施設の更新等に伴う歳出の増が避けられず、厳しい財政環境が見込まれるなか、10年後の財政状況を見据えた効率的な資源配分、行政のスリム化、公共施設の再編統合などの行政改革の取組みを着実に実行することにより、持続可能な自治体経営の確立を目指すものであり、第8次氷見市総合計画後期基本計画や地方創生総合戦略を行財政面から下支えする計画であります。</p> <p>本日は、計画期間の初年度であります平成30年度が終了し、基本計画で設定した数値目標や実施計画の取組みについての実績が確定しましたので、委員の皆様方にご報告させていただくとともに、現時点での中長期の財政見通しについてお示しし、今後の取組みについての検討をお願いします。</p>

るものであります。

今後とも、本計画を着実に実行することにより、氷見市に、そして市民の皆様へ新たな活力をもたらし、明るい展望をお示しできればと考えております。

本日は、各分野を代表してご参加いただいております委員の皆様方に、忌憚のないご意見をいただき、市政の発展にお力添えを賜りますよう切にお願い申し上げます。

結びに、本日ご出席の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、どうか、よろしく願いいたします。

泉澤総務課長

本題の協議事項に入ります前に、委員の皆様のご紹介、会長の選出について、事務局の方で進行をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

最初に、委員の皆様をご紹介します。

氷見市農業協同組合代表理事組合長の伊藤様です。

氷見市小中学校PTA連合会会長 上田様の代理、山本様です。

氷見青年会議所理事長の禅野様です。

氷見市連合婦人会会長の高木様です。

氷見市社会福祉協議会会長 高嶋様の代理、七分様です。

氷見商工会議所会頭の寺下様です。

氷見市老人クラブ連合会会長の堂端様です。

氷見市観光協会代表理事会長の松原様です。

氷見市自治振興委員連合会会長の猶明様です。

氷見漁業協同組合代表理事組合長の森本様です。

氷見市金融協会会長の清水様です。

氷見市事業所協会副会長の矢地様です。

連合富山高岡地域協議会 氷見地区協議会議長の向井様です。

氷見市特別職報酬等審議会委員、税理士の田中様です。

氷見市情報公開・個人情報保護審査会委員の釣賀様です。

氷見市民議会副議長の林様です。

氷見市有線テレビジョン放送番組審議会会長の山口様です。

なお、濱谷委員につきましては、本日ご欠席の連絡をいただいております。

次に、会長の選出ですが、本懇話会におきましては、これまで自治振興委員連合会の会長をお願いしております。

皆様、いかがでしょうか。

(賛同)

ありがとうございました。

それでは、猶明様には、会長席にお着きいただき、議事進行をお願いしたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

猶明会長

おはようございます。本日は足元の悪い中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

蒸し暑い日々がやっと終わったと思ったら、その後は毎日雨が続き、本日も大雨警報が出ております。大きな災害が発生しなければよいと思っております。

本市においても少子高齢化や人口減少など、大変な時期を迎えており、新しいまちづくりに向けて事務局から説明がありますので、委員の皆様には、忌憚のない意見を賜り、前向きに検討をいただきますようお願いいたします。

最初に副会長であります、会長の指名ということになっておりますので、連合婦人会会長の高木さんをお願いしたいと思っております。

高木さん、よろしくお願ひいたします。

では、こちらの席にお移りください。

それでは、協議案件に入りたいと思っておりますが、本日の議事録につきましては、これまでの会議と同様に、発言の要点を、委員名を伏せて公表したいと思っておりますのでご了承よろしくお願ひいたします。

議事録の作成及び公表に関する事務処理につきましては、事務局の方でお願いいたします。

それでは、協議資料を一括して、事務局に説明をお願いいたします。

泉澤総務課長

【資料1】氷見市の行財政改革についての説明

【資料2】「氷見市行政改革プラン」基本計画 数値目標実績（平成30年度）の説明

東軒財務課長

【資料3】氷見市中長期財政見通し（令和元年度～令和10年度）の説明

釜田総務課主査

【資料4】「氷見市行政改革プラン」実施計画 取組内容（令和元年度追加分の説明

【資料5】「氷見市行政改革プラン」実施計画 取組実績等一覧の説明

猶明会長

ただ今資料1から資料5までの説明がありましたが、委員の皆様からご意見等を伺いたいと思っております。

委員

色々な事業を順次進めており素晴らしいと感じていますが、大型案件も

含め、財政面で少し気になるところがあります。中長期財政見通しが示されており、例えば、平成30年度の市税の収入が増えたことは理解できますが、今示された30年度のものが前に比べると、10年間、大きく改善しています。大幅に見通しが膨らんでいることについての説明をもう一度お願いします。財政調整基金は減っていくので、見通しを考えると、収入の幅があるとすれば、低めに示した方がよいのではないかと、という思いで質問をさせていただきます。財政調整基金は、平成24年度に土地開発基金8億円がプラスされていますが、こういうことをしながら10年間を見ているのか。土地開発基金は何のためにあったのか、本当に必要ないのかも含めてお聞かせ願えれば、と思います。

東軒財務課長

まず、中長期財政見通しの歳入について、資料3の9ページに試算方法が書いてあります。経済成長率は、令和元年度については、国では名目成長率1.7%を見ています。今後もベースラインケースで1.5%程上昇するだろうと見ています。氷見市の場合、それほどにはならないということで、経済成長率0.5%、国よりは厳しい数字で見ています。前年と比べて、市税はあまり変動はありません。ただ、普通交付税は今年度若干伸びています。今までは2億円ほどの減少幅できていたのが、今年度は10月から行われる保育料の無償化など福祉関係で増額の試算をしております。ただ、普通交付税に関しては、国の経済状況があり、国の限られたパイの中で行われるので、もう少し厳しくしたいと思っています。来年、地方財政計画が出るので、それを見て見直しいたします。

また、土地開発基金は土地の先行取得のためにあった基金ですが、現在は土地開発公社が事業を行っており、基金が使われないことがないので、財政調整基金に移行して、将来的に財源が足りない場合はそちらの方に使っていきたいと考えております。

猶明会長

多分、今の市税のことについては、今回の資料3、中長期財政見通しでは平成30年度53億2,700万円だが、当初の行政改革プランの中長期資料では51億4,900万となっており、市税の収入が膨らんでいることについての説明を求めたもの。当初のプランとの差、その内容は何か、ということです。

東軒財務課長

当初の計画では平成28年度をベースに考えておりました。平成29年度はあまり変わらない数字となりましたが、平成30年度は1億7,800万円増になっています。内容は法人市民税などで、想定外のものだったと思っています。

猶明会長 企業誘致の関係で膨れてきたものですね。

東軒財務課長 そうです。

猶明会長 委員の方、順番に発言をお願いします。

委員 資料5、13ページ取組項目番号35「後期高齢者医療事業の適切な運営」について、滞納整理表を作成して収納管理や滞納処分を行っているということですが、大変な仕事だと思いますが、具体的にどのように行ったのか教えていただきたい。

澤市民部長 市民部では介護保険料、後期高齢者医療保険料のいずれも所管しており、滞納管理には本当に苦慮しているところです。今のご質問のあった件は、今まではマンパワー不足が障害となり、管理が十分にできていなかったという反省に基づき、個人別の収納について細かく管理表を作成し、その上で職員が個別に訪問するなどして収納率の向上を図ったものでございます。

委員 穏やかな感じで？強制的なものがあつたのかな、と思ってお尋ねしている。

澤市民部長 どの程度のイメージで思われたか分かりませんが、しっかりとしたデータをもって個別に細かく訪問させていただくことで収納に結び付いた、ということが大きいと思っております。

委員 私の思いですが、市街地の本通りが本当に狭いという感じ。信号が多いのと店に寄っている人が駐車していることが多く、氷見市街を利用する人が通りにくくなったな、と感じます。一方通行的なことを考え、帰りは海岸通りや160号線を使って帰るなどすれば、氷見市の街の活性化につながるのではないかと思います。

大野建設部長 現在、都市計画課が都市計画道路の見直しを図っており、氷見市の街中の整備の中で幹線道路を見直し、今後、氷見市の街をどうよくしていくか、ご提案があつた一方通行などのご意見も参考として、今後の対策について考えていきたいと思っております。

委員

全産業で人材確保が非常に大きな課題となっています。私どもも非正規職員が8割近くという形で運営しており、どうやって職員の待遇を考えたらよいかという中で、市では会計年度任用職員制度が来年度から施行されるということを伺いましたが、概要についてご説明いただければ。

藤澤総務部長

現行では、市の中には臨時、嘱託、パート職員などがおり、また、特別職の非常勤職員などもあります。これまで規定が曖昧であったものを、地方公務員法の改正により、令和2年4月から嘱託、臨時、パート職員を会計年度任用職員として条例や規則で規定して運用しなさい、ということになりました。給与水準、手当、任用後の取扱いなど常勤職員との権衡を考慮した制度設計が求められています。現在、どういう人がいるか洗い出し、今年度12月議会での条例の提案に向けて、制度設計を進めているところでございます。

委員

プランは素晴らしいが、実施内容について、やるのが目的となっている感じがします。例えば、資料5、取組項目番号1「地域づくり協議会の設立への支援」について、協議会を作ることが目的になってはだめで、その後どういう地域になっていかなければならないか、そこに向かっていくのが大切であります。作った後はどうなっているのか伺いたい。

資料4、取組項目番号117の「エネルギー構造高度化事業」についても、これを実施し、最終的にどうなってほしいのかお聞かせ願えれば、と思います。

京田企画政策部長

市内の地域ごとに地域づくり協議会を設立し、地域の人と共にこれからの地域づくりを活性化していきたいと考えており、市では、地域担当職員を配置し、地域振興課が所管して、令和3年度末までに21地区での設立を目指しているところです。確かに協議会を作れば終わりではなく、それが出発地点であり、設立に向け地域の方々とできる限り話し合いの場を持ち、課題、問題、10年先はどうなるかを話し合いながら、どう取り組めば持続可能な地域、より生活しやすいところにしていけるか協議を重ねているところでございます。

現在7地区で設立していますが、今後、地域づくり計画の策定にも取り組んでいきます。市としても、色々な活動の支援をしており、財政的支援として運営費の補助もしています。それに限らず、市の職員と一緒にあって地域の課題の解決に向けて取り組んでいきたい、ということが地域づくり協議会の主たるところでございます。

澤市民部長

資料4の今回新たに追加した取組みの117番「エネルギー構造高度化事業」について、日本のエネルギー構造は、昨今の経済的・社会的な環境の変化によって、今後、安定的で適切なエネルギー構造への転換を図っていく必要があります。特に、氷見市は志賀原発の30キロ圏内、いわゆるUPZ圏内であり、不測の事態が生じた時に既存の電力に頼っているだけでは安心した生活をお届けできないため、既存の電力への依存度を低くすることを目指す必要があります。

経済産業省でUPZ圏内の自治体が行き組む事業に対し10/10の助成制度があり、エントリーすることで今申し上げた目的に向けて事業が展開できないか、ということでこの事業を始めたものです。具体的には、今年度は市の公共施設と民間施設12施設程度をリソース制御システムを設置したうえでネットワークでつなぎ、一体のものとして電力量の管理を行います。その中の一箇所には、市の施設になると想定していますが、太陽光発電設備を設置し、発電した電力もネットワークの中で取り込み、トータルで省エネルギーの効果を検証します。今年度は実証事業ということで、これらのことを検証したうえでよい結果が得られれば、今後この事業を展開していくとともに、地域の中で電力需給のマネジメントを行う事業体を設立し、氷見市の中でエネルギーの循環を目指していく計画でございます。

委員

エネルギー構造高度化事業については、新たな取組みで楽しみな反面、難しい話があるのかな、と感じました。今の話が進めばよいな、と思います。地域づくり協議会が目指しているものはいいなと以前から感じていたので、後は、実際にそこにたどり着けるような実施計画の流れがあればよいと思います。

猶明会長

太陽光発電設備の設置場所は未定なんですね。

澤市民部長

今、事業者と具体的な場所について最終的な詰めを行っている段階です。

委員

小中学校の再編成についてお聞きしたい。来年、西部校下で3つの小学校と1つの中学校が統合され、開校されます。今後、長い目で見て小中学校の再編計画がどのように進んでいくか、具体的な案があればお教えてください。

関連して、学校教職員の人員の在り方について、子供の数が少ないことに伴い教職員の数も減少している現状に対し、よりよい教育を受けるため

に、是非教職員数の増員を氷見市の方で考えていただきたい。

猶明会長

資料5の27ページ、取組項目番号78「小中学校の再編、適正配置」の右側の「小中学校の将来計画については、新たな計画の策定に着手する」というところですね。

大門教育次長

再編計画については具体的なことは現在決まっておられません。先の再編計画を見ていると、複式学級の解消など学習環境を整えることを基準としており、これを含めて今後の児童数を見ながら方向性を探していきます。もちろん、校区、地元の方の意見を聞きながら決めていきたいと思っております。

教職員の増員については、日頃から県にも要望しています。子供のことを考え、これからも力強く要望していきたいと考えております。

委員

是非教職員の増員を前向きに検討してほしいと思っています。あと、小中学校の耐震化は終わったが、老朽化しているので、トイレなどの衛生面を含め、建物の古い窪小学校など、改善をお願いします。

委員

財政・組織については、長期的に、短期的に統制していくことが必要だと思う。10年は少し長いという気はするが、長期を見て中期を見て、ここにいる幹部の皆さんが色々と施策を打っていく、というやり方は良いと思うので、しっかりとやってください。

委員

資料2市税の収納率ですが、30年度までに99%を目標に掲げており、かなり高い率で回収していますが、現在、回収不能金額の累計はいくらありますか。

もう1点、資料4の取組項目番号120、市民病院の管理について、最近、市民の声をよく耳にします。色々な病棟で相談したらなかなか病状が分からない。「市民病院より大きなところを紹介するので、なんなら行ってください。」と言われる先生が何人かいる。患者は先生を頼って来ているので、先生との信頼関係、また、意思の疎通が本当に大事だと思います。というわけで、客が離れ、赤字になっているかもしれない。そういう面もあるので、医師の質の高さを求めていきたい。

藤澤総務部長

市税の未納の累計ですが、市税の調定額は現年と滞納繰越合わせて55億7,400万円に対し、収納額53億2,700万円で、差引すると2億4,700万円が未納になっています。そのうち5,000万円が現年

度分ですので、ざっくりと50億のうち5,000万円、1%がその年の未納ということになります。残りはこれまでの未納額調定2億2,300万円に対し、平成30年度に収納したのが3,400万円ということで、これまでの積み重ねの未納が約2億円近くあります。

委員 市税の民間委託で、プライベートとかそういうことの漏れとかありませんか。

藤澤総務部長 それについては、契約の中でしっかりとしておりますので、大丈夫です。

委員 民間委託もよいが、やはり職員が電話で督促して、客との色々な会話の中でより一層解決できることがあると思うので、民間委託はどうかと思う。また、検討をよろしくお願いします。

澤市民部長 今ほどお話があったようなことが多々あるようであれば、市として非常に遺憾なことであり、事実であれば、市民病院の開設者として市民の皆様にお詫び申し上げないといけません。病院には大学病院を指定管理者にお願いしていることを踏まえ、専門的な医療、質の高い医療をお願いし、ホスピタリティーの面においても、ドクターだけでなく、看護師、事務職員も含めて市民にとって身近で優しい病院であってほしいとお願いしております。病院でも日々研修などの努力をしていると聞いています。

今後の話として、市民の皆様により信頼のできる病院であるため、身近に感じ、より知っていただく対策が必要と思っています。今まで以上にケーブルテレビや広報などを通して市民病院のことを伝える努力をしてみたいです。

少し質問の観点と違うかもしれませんが、大学側の努力として、今年の春から今までいなかった救急医療専門ドクター1名の配置をしてもらっています。救急医療への不安ができるだけ軽減されるよう市民の皆様に発信していき、安心してもらいたいと思っています。

委員 小中学校の再編のことで、この前、新聞で業者が決まらなかったとかデザインが決まらなかったとか、来年に向けての開校がどうなっていくか心配しています。資料には「令和2年4月の開校に向けて」となっていますが、日数がわずかです。現在どうなっているのでしょうか。

大門教育次長 改修工事が遅れていることについては申し訳ないと思っております、深くお詫び申し上げます。県内初の小中一貫義務教育学校ということで地元の方

も期待されており、教育委員会も開校に向けて準備していて、来年4月に開校したいと考えております。現実としてどういったものができるか検討しており、必要であれば議会にお諮りしたりしながら、進めているところでございます。

委員 まだ固まっていない、ということですね。

大門教育次長 9月議会で方向を示し、議会で審議いただければ、と思っております。

委員 孫から「子供たちはどの学校にいるのか。前の学校にそのままいるのかな。」と心配して聞かれると、どう返事をしてよいのか分からなかったものですから。

鎌仲教育長 今、準備をしており、言える時期が来るまでもう少しお待ちいただければ、と思います。

委員 病院のがんセンターについては、財政的に収支が難しく、やむを得ないと思う。色々努力しているようですが、このところ赤字基調となっていることについて、市の財政との関わり方を伺いたい。

澤市民部長 これまでも、大学や病院には、指定管理者として健全な経営をしてもらうよう開業当初からお願いしているところです。病院・大学でも毎年様々な努力をしてもらっております。交付税、補助金、国からいただける経費をルールとして病院に交付し、平成30年度はこれに加えた形で、新しい病院になった時点で病床数を減らした際国から激変緩和措置として交付税措置されたものは終了しましたが、もう少し応援していくという形で継続して市単独で交付しているものを含め、政策的医療等交付金として財政的に交付しております。昨年度も少し赤字が出た状況で、今後については、医療環境や社会的な状況が指定管理を始めたときとは10年経って非常に変わっていることを踏まえ、公的病院としてあるべき姿を双方協議をしつつ、見直しも含めて検討してまいりたいと考えております。

猶明会長 委員からは財政面での援助、市から赤字になった時どれくらい補填しているのかの中身についても聞かれたと思うのですが。

澤市民部長 毎年毎年赤字になったから補填という形での交付は、今のところはしておりません。

委員

資料5、14ページ、取組項目番号39の創業者支援について、創業もあれば廃業もある。金融面で問題になっているのは高齢に伴う廃業が多いということで、事業者数が減少している。富山県新世紀産業機構の事業引継ぎ支援センターは今まではあまり機能していなかったが、最近非常に問い合わせが多いということです。氷見市の中に継業について相談できる部署があるのか、今後作る予定があるのか、教えてほしい。

また、企業立地、企業誘致については最優先事項と思っているが、富山県のPRが終わった後に市町村間の戦いが出てくる中で、氷見市としての強みとかメリットとかがあれば教えてください。

森田産業振興部長

創業等については、特に継業、後継ぎがないというのが大きな問題となっています。氷見市では、継ぐ方は「創業」と考え、創業支援の中で行っております。氷見まちづくり協議会が運営するビジネスサポートセンターは既存事業者についてアドバイスしていく部分が大きいが、継業については、センターに配置した2名に色々なところを回ってもらい、後継者のいない人たちがどういう形なら継がしていくことができるか、そういう地道な部分から始めながら、進めてまいりたいと考えております。

企業立地などについて、富山県は、呉東は水が安いというセールスポイントがあります。呉西は東海北陸自動車道と北陸自動車道で立地は大変良いが、氷見のセールスポイントというとなかなか難しい。現在市内に分譲可能な工業用地は持っていない状況ですが、民間の土地いくつかの所有者と話をし、紹介をしてもよいという承諾をいただき、色々なところを回っているところです。現在セールスポイントがあるかないかはっきり、というご質問であれば、難しいところでございます。

猶明会長

氷見市にとって企業は大事だと思いますので、セールスポイントを見つけてください。

委員

職員数の推移ということで、資料の2を見ると、平成31年4月1日現在非正規職員も含め521人、令和3年4月1日まで542人が目標で、現在21人不足という表現ですが、資料3の中長期財政見通しの人件費でいうと、令和元年から令和2年にかけては上がるが、令和3年からまた下がるのという違いはどういうことなのか。

企業側では働き方改革を含めて福利厚生面を充実しないと、人材難がクリアできない状況で、フレックスタイムや男性の育児休暇推進に取り組んでいるが、市では毎週水・金曜日のノー残業デーにプラス早出遅出の運用

など、実質業務時間が少なくなっていく中で、市としてのサービスの質を落とさないでやっていく具体的施策があればお聞かせいただきたい。

藤澤総務部長

人件費は、原則前年の退職者の100%補充という考え方で試算しています。職員は約20名不足しており、募集しても集まらない職種があることが不足の原因になっています。人件費の減については、新陳代謝や時間外勤務手当の縮減などを考慮して試算したものです。

勤務時間を少なくしても仕事は減らず、これから少ない人数で多くの仕事をこなさなければいけない状況が続くので、仕事のやり方に非効率な部分があるのではないかとこのことを分析いたしたい。そのようなことは是正、あるいはAI、市ではRPAの活用など省力化を図りながら、全体の事務量を減らしていくことを考えてまいりたい。

委員

時間外勤務時間の平成28年度対比年間10%削減については、残業時間を減らすのが最終目的ではなく、業務の効率化、10%削減の動きをしていただければよいのかなと思います。

委員

大変な状況の中で努力している、とは言っても、財政について財政調整基金の額が減ってくる。資料3の3ページ、2019年27億3,100万円が2028年には14億4,700万円となっています。

先程、市の税収の見積りが少し甘いのではないかと、と言われたが、将来的に厳しい時代が予想される中、市がどうデジタル化するのかが難しいところだと思う。例えば交付金が増になっても、過去5年間の増減の平均値でやるのか、厳しい数字を出しながら資料を作った方がよいのではないかと思います。

後継者不足の問題は、私も中小企業の後継者が非常に少ないと感じます。子供がいても後継者候補が市外で生活している場合が多い。そういう人に氷見で頑張ってみようかな、と言ってもらえる取組みが大事である。地域づくり協議会設立や学校の統廃合が優先されているが、地域の人が発言して実現していくという形でやらないと魅力的なまちにならないと考えるので、よろしくをお願いします。

東軒財務課長

中長期の歳入の見通しについて、税の見込みは、令和元年度は企業誘致の影響で増えているという状況からの試算なので、来年度以降も注視して、厳しい見方にしていきたいと思っております。

京田企画政策部長

まちづくりについて、先ほども言ったとおり、地域づくり協議会につい

ては作ることが目的ではなく、設立に向けて地域と課題や力をどう出し合っているのかについて話し合うプロセスが大事と考えております。

総体的には、市長が先程申し上げた元気づくりプロジェクトの中で住みたいまち、働きたいまちに係る各種施策を展開し、より良いまちづくりを目指しておりますので、総合的なより良い氷見に向けて各分野で努力をしていきたいと思っております。

委員

私の方からは3つ教えていただきたい。

ひとつ目、資料2、5ページの一番下の表、職員数の推移と6ページの時間外のページを見ていたら、平成28年度より平成29年度の方が職員数が増えていますが、平成29年度の方が時間外勤務時間数も年間300時間を超えて時間外勤務をした人の数も多い。平成30年度になると、また減っています。平成29年度だけ増えた特別な要因があれば教えていただきたい。

2点目は、同一労働同一賃金の流れの中から会計年度任用職員制度という考え方が出てきたと認識しています。働き方改革から、副業ということ考えられるようになってきており、自治体によっては、公務員が空いた時間にボランティアではなく報酬をいただいて仕事をする、副業が認められつつあります。氷見市も非常勤職員の割合が増えていく中で、考えていく余地があるのかなのか。

3つ目は、資料5、取組項目番号39の創業者の補助金交付は、毎年度10件ずつという考え方で、平成30年度15件の実績が上がっていますが、創業時に補助金を差上げた後、どうフォローして、何年度にどうなったか把握しているのか、ということをお聞きしたいと思います。

森田産業振興部長

最後の質問について、創業者支援事業については商工会議所と連携しており、補助金を出すときには、まず商工会議所に会議に入ってもらい、創業者が毎年どのような状況になっていくのかについての書類を商工会議所を通じて市にあげていただいております。商工会議所が書類を作るためには、当然事業者を色々と支援していかなければならない、という中でフォローの仕組みを作っている、という状況です。

現在、創業した方が皆必ずハッピーな状況であるとは言えず、1・2件はうまくいかず廃業した方がいますが、他のところでは創業者は5年10年経つと10分の1ぐらいになると一般的に言われている中で、氷見市は商工会議所にフォローしていただきながら頑張っている、という状況でございます。

泉澤総務課長

1点目の、平成28年度に比べて平成29年度時間外勤務数が多くなっている理由ですが、平成28年度まで時間外勤務に対する管理がきちんとされていない面があったのを、平成29年度から、管理職がきちんと時間外勤務命令を行い、いわゆるサービス残業をなくし、しっかりと管理をしていこうということになりました。パソコンでの出退勤時間の管理をもとに時間外勤務申請を行うということを徹底した結果、時間外勤務時間数が増えたものと考えております。それを受け、この後は、管理の中でやみくもに減らすだけではなく、事業の見直しなどを図り、時間外そのものを減らしていこうと取り組んでいるところでございます。

2点目の副業については、国は短時間勤務の会計年度任用職員の副業を認める方針を打ち出しており、氷見市も考えながら制度設計をしていきたいと思っております。ただし、本業に支障がある場合や仕事の内容が公務員としてふさわしくない仕事であれば管理していかなければならない、と思っております。

委員

氷見市海浜植物園のリニューアルについて、少子化で氷見市の子供が減っているの、「海浜植物園の遊び場がいいよ。」と自慢できる施設にしてもらえば、市外へ出た時「あそこがいいよ。」と宣伝できるので、市外の方も使えるような施設にしてもらえばよいのかな、と思っております。

大野建設部長

海浜植物園のリニューアルということで、資料5、26ページ、取組項目番号74に記載されている、ふわふわドームなどの遊具や、リカレント研修施設の整備は終わっています。平成8年にオープンした時の入園者数13万人は毎年減少し、4万5,000人程度で推移しています。夏の「親子ふれあいまつり」で特殊なクワガタやカブトムシを展示するなどのイベントを行い、たくさんのお子さんも来ています。今回の遊具のリニューアルに伴い、イベントも考えながら、たくさんのお子さんが来る施設にしたいと考えております。

委員

時間がないので、広域消防体制と図書館の内容の充実などの質問は別の機会にし、資料の感想なんですけど、広域連携というのは言うは優しいが実際は大変だと感じました。公共施設のランニングコストは、市とすればできるだけ削減、抑制し、補助金のカットをしたりしないと財政が成り立たないということだと思いますが、その際に当事者の人たちとの話し合いを事前に丁寧に行うということが大切ではないかと思っております。公民連携もそうだが、そこを誤ると市民の協力は得にくく、せっかくイベントや事業をしてもなかなか進まないで当該人がそっぽを向く、というのは氷見

市に限らず、他の市町村にもあります。その辺のことに留意していただけるとよいかな、と思います。

猶明会長

全委員から貴重なご意見をいただいたので、市の方で反映いただくよう、よろしく申し上げます。長時間ありがとうございました。これをもちまして、本日の会議は終了したいと思います。

泉澤総務課長

皆さま、本当にありがとうございました。終わりに市長からひと言挨拶がございます。

林市長

本日は長時間にわたり、熱心に議論していただき、色々なご意見をいただきました。

ここ数年、新文化施設の整備、学校給食センター、大浦の氷見運動公園の改修などの大型事業が続きますので、しっかりと50年後の財政がどうなるかを見据えながら進めてまいりたいと思います。

財政調整基金については、氷見市の標準財政規模120億の1割を財政調整基金で持っていれば標準的であると言われるので、なんとか10年後にも12億円を確保するという形で、当面する課題の解決を進めてまいりたいと思っております。

本日は貴重なご意見ありがとうございました。